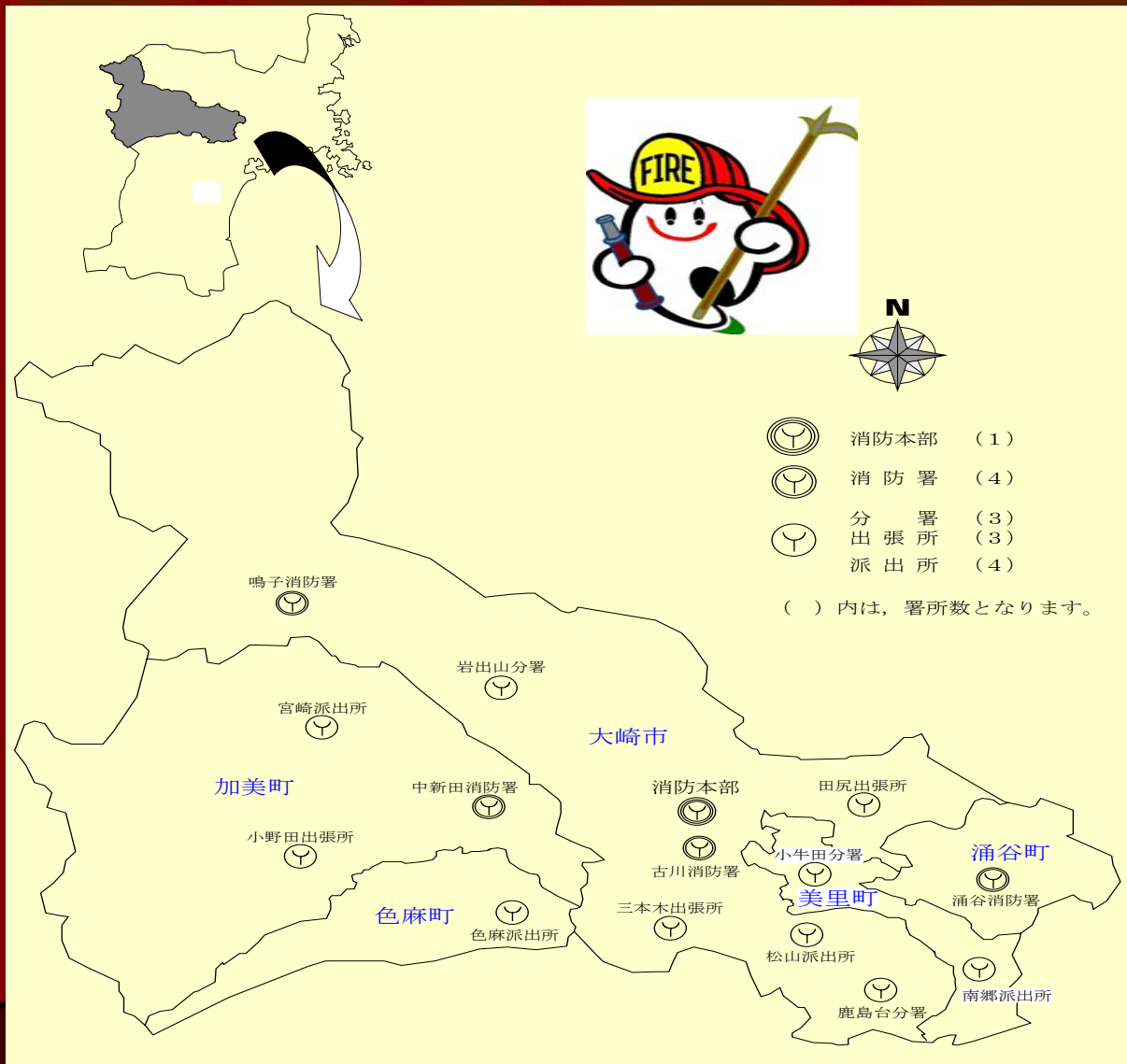


大崎広域消防の広域化推進

大崎地域広域行政事務組合消防本部

工藤 司

大崎広域消防管内図



大崎広域消防の沿革

- 昭和45年1市12町1村で一部事務組合を発足
1本部・2消防署・1派出所 92名で消防業務開始
- 昭和48年広域行政事務組合に統合
1消防本部・4消防署・3分署・2出張所・1派出所
定数条例214名
- 平成の大合併で1市4町の構成
1消防本部・4消防署・3分署・3出張所・3派出所
定数条例338名

位置及び地勢

県北西部の大崎耕土

- 当圏域は、宮城県の北西部に位置し、南は広域仙台都市圏、東は広域石巻圏、北は栗原市・登米市、西は山形県・秋田県にそれぞれ接しています。
- 地勢としては、西部の山岳地帯の荒雄岳を源とする江合川、船形連峰を源とする鳴瀬川の二つの大きな川が西から東に向かって流れています。
また、山間部の豊かな森林に覆われた自然を源とする水は、圏域の北西から南東に広がる肥沃に満ちた広大な平野「大崎耕土」を潤し、昔から米どころとしての水稻の盛んな流域圏を形成しています。
- 圏域の人口は、平成19年4月現在218,267人(平成17年国勢調査218,276人)で、宮城県総人口の約9.3%を占め、広域仙台都市圏、広域石巻圏について3番目の規模となっています。





国土の縦軸と横軸が交差する大崎

- 圏域は、JR東北新幹線・東北本線・陸羽東線・石巻線などの鉄道や、東北自動車道・国道4号・47号・108号・346号・347号・457号などの幹線交通網が、縦横に通った交通アクセスの優れた地域となっています。





日本の食糧供給基地

- 主要な産業は農業となっており、「日本の食糧供給基地」として広大で肥沃な大崎耕土に育まれた良質米「ササニシキ」「ひとめぼれ」などを産しています。
- 栗駒国定公園や県立自然公園船形連峰などの優れた自然景観や鳴子温泉をはじめとする多くの温泉施設、歴史の道「奥の細道」や遺跡などの文化財、太鼓や神楽などの伝統芸能など文化遺産にも恵まれており、豊富な観光資源を活用したレクリエーション産業が発展しています。




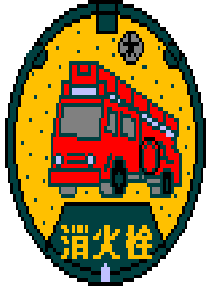
大崎広域消防の主な統計 その1

	面積	人口	世帯数	人口密度 (1 km ²)
人口・世帯	 1,523.95 km ² 構成: 1市4町	 218,267 人	 69,890 世帯	 143.225 人:1 km ²




大崎広域消防の主な統計 その2

	消防予算(19年度)	署 数	職 員 数	消防団員数
消防予算 組 織	 2,683,509 千円	 消防本部 1 消 防 署 4 分 署 等 10	 定員 338 人 実員 320 人	 定員 4,566 人 実員 4,176 人





大崎広域消防の主な統計 その3

		消防車	特殊車両	救急車他	水利
機 施	械 設				
		ポンプ車 15台 タンク車 6台 化学車 1台	はしご車 2台 救助工作車 1台 大型水槽車 1台	救急車 13台 指令・指揮車 10台 その他車 9台	消火栓 2,907基 防火水槽 1,005基 その他 122基

大崎広域消防の主な統計 その4

	火災件数	救急件数	救助件数	その他
緊急出動 (17年中)	 128 件	 8,142 件	 64 件	 危険物等漏洩 35 件 怪煙等偵察 5 件 その他 146 件

大崎広域消防の主な統計 その5

	防火対象物	危険物施設	セーフティマーク	防火組織
予 防	 <p>8条 1,784件 17条 6,232件</p>	 <p>製造所 1件 貯蔵所 756件 取扱所 358件</p>	 <p>該当対象物 210件 表示認定対象物 156件</p>	 <p>婦人防火クラブ 286 少年消防クラブ 3 幼年消防クラブ 42</p>

相互応援協定 その1

- 市町村は、その管轄区域内における火災等の消防活動の責任を有しておりますが、その消防力をこえる大規模火災や特殊災害等が発生した場合、それらに対応するため消防組織法に基づき近隣の消防本部等と消防相互応援協定を締結しております。

相互応援協定 その2



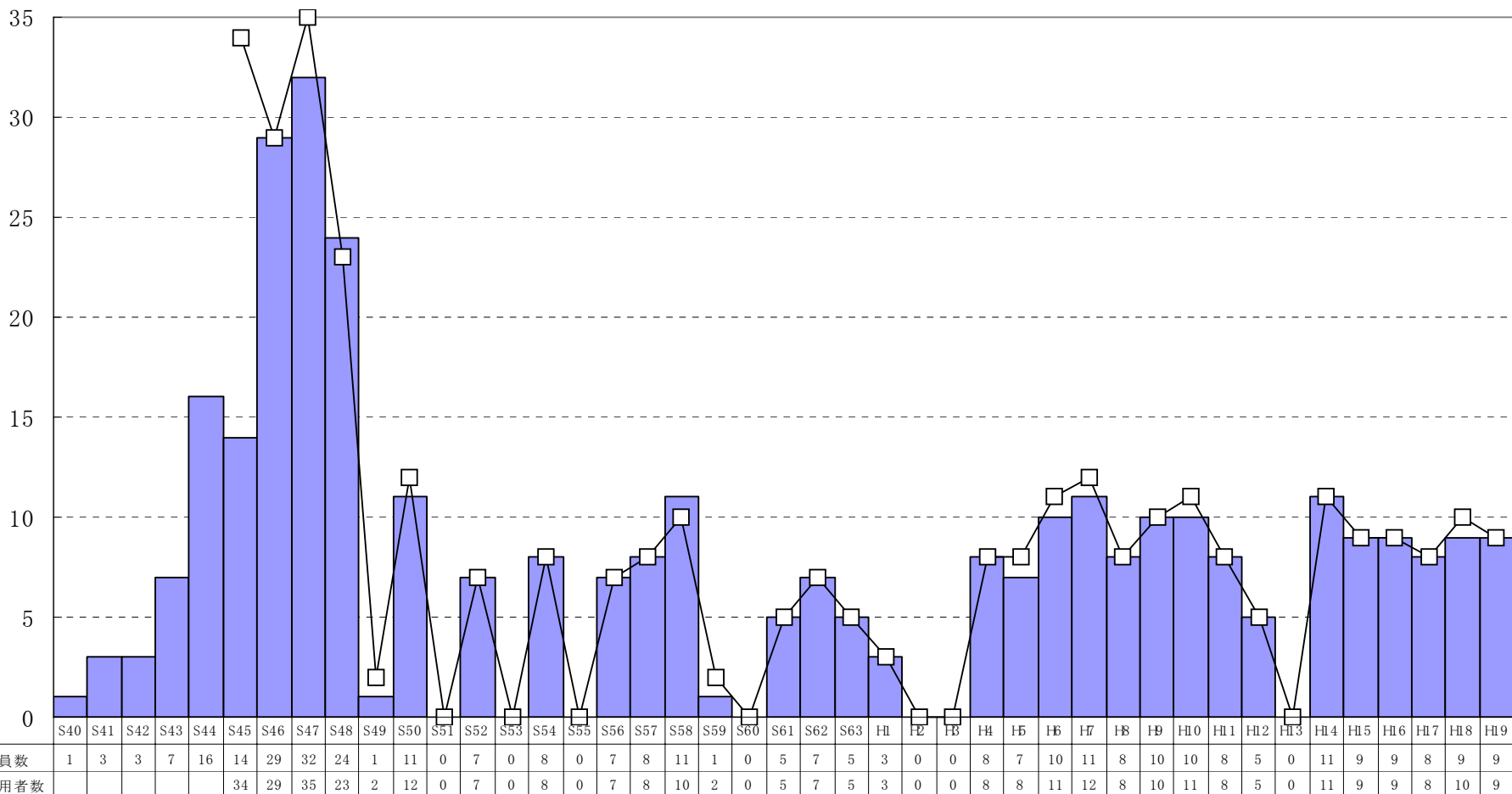
消防力の整備指針と現有消防力 その1

区 分		基 準	現 有	過 不 足 数
署 所 の 数		15	14	△ 1
車 両	指 揮 車	4	4	0
	ポンプ自動車	21	21	0
	は し ご 車	2	2	0
	化 学 消 防 車	1	1	0
	救 急 自 動 車	11	11	0
	救 助 工 作 車	1	1	0
	特 殊 車 等	3	3	0
計		43	43	0

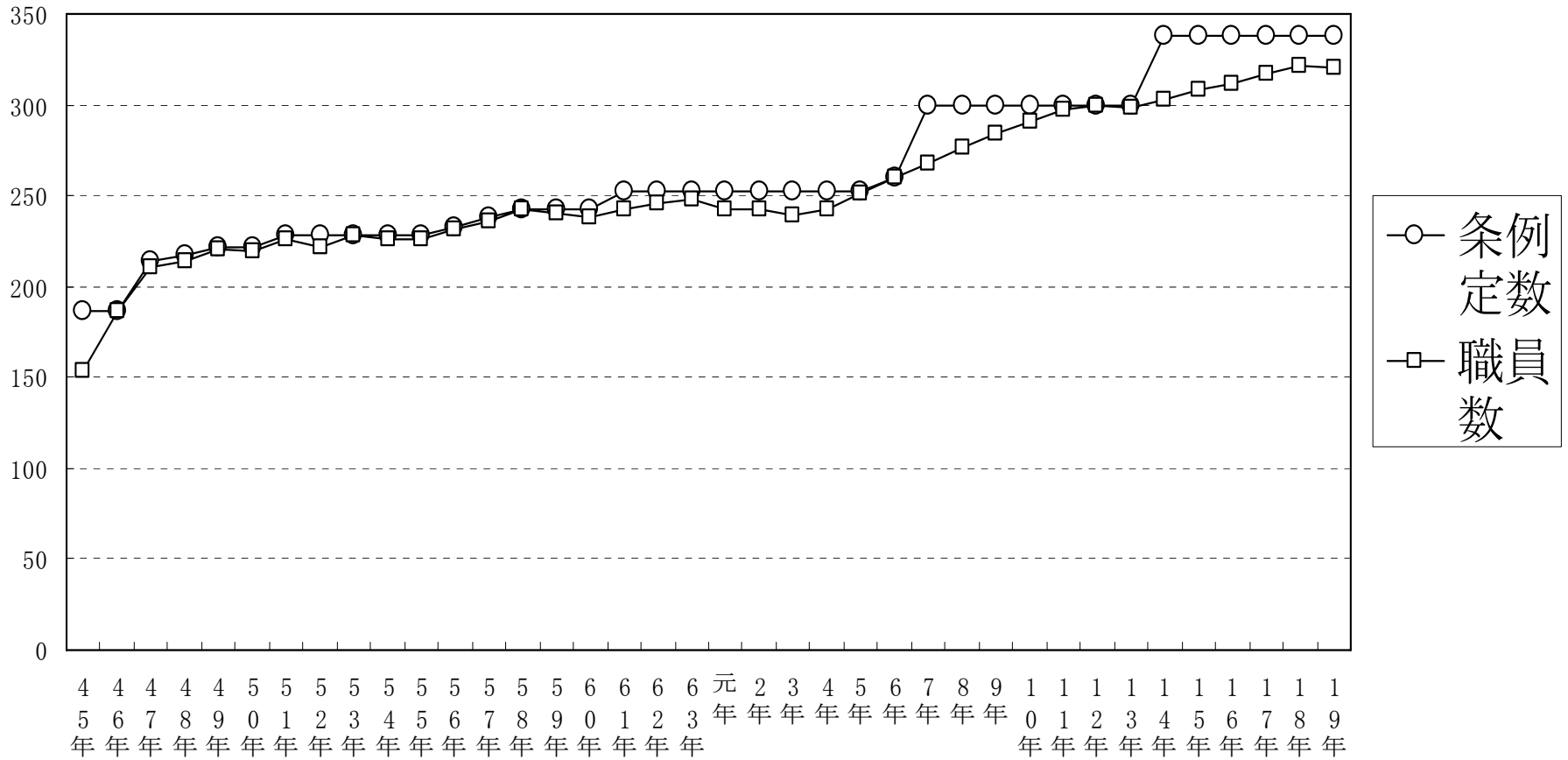
消防力の整備指針と現有消防力 その2

人 員	警 防 要 員	374 うち 45 名は専従救急隊員	278 うち 45 は専従救急隊員	△ 96
	予 防 要 員	23	14	△ 9
	通 信 要 員	15	11	△ 4
	庶 務 の 要 員	17	17	0
	計	429	320 (充足率 74.6%)	△ 109

年度別消防吏員採用数と採用年度別 職員現員数



職員数と条例定数の推移



消防車両配置表

署所別	種別	計	消防車両					救急車	その他の車両						
			大型水 槽車	水槽付 ポンプ	ポンプ 車	はしご 車	救助工 作車		化学車	司令・ 指揮車	連絡車	査察車	広報車	救急広 報車	搬送車
消防本部		9(4)		1(1)	1(1)				2(2)	1	1		1	1	1
古川消防署		21	2	0	5	1	1	1	5	3	2	1	0	0	0
古川消防署		10	1		1	1	1	1	2	1	1	1			
鹿島台分署		4	1		1				1	1					
三本木出張所		3			1				1		1				
田尻出張所		3			1				1	1					
松山派出所		1			1										
鳴子消防署		10	0	2	2	1	0	0	2	2	0	1	0	0	0
鳴子消防署		6		1	1	1			1	1		1			
岩出山分署		4		1	1				1	1					
中新田消防署		10	0	1	4	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0
中新田消防署		5		1	1				1	1		1			
小野田出張所		3			1				1	1					
宮崎派出所		1			1										
色麻派出所		1			1										
涌谷消防署		10	0	2	3	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0
涌谷消防署		5		1	1				1	1		1			
小牛田分署		4		1	1				1	1					
南郷派出所		1			1										
計		60(4)	2	6	15(1)	2	1	1	13(2)	10	3	4	1	1	1

※ () 内は非常用

大崎広域消防の広域化への取り組み

- 現大崎消防の課題抽出
- 構成市町への課題の説明
- 検討会の設置
- 消防広域化を見据えた報告書の作成
- 構成市町議会への説明
- 組合議会への報告
- 報告書内容の承認
- 消防広域化に対応できる体制整備への着手

現大崎消防の課題抽出

- 消防施設整備の必要性
老朽化した庁舎等の整備
適正な署所の配置
- 消防職員の効率的運用の必要性
消防力の整備指針に基づいた消防車両乗車人員等の配置
- 人材育成の必要性
 - ・将来を見据えた職員採用年次計画
 - ・職員の柔軟な思考力と資質の向上を図り、関係市町村との折衝力等の向上と将来的消防体制の発想
- 消防本部組織改変の必要性
組合消防発足時の社会基盤と現状における社会基盤を的確に認識し効率的組織構成を検討

構成市町への課題の説明

- 圏域住民の安心・安全を最優先に考え、今後における消防財政を試算したとき、世代交代が始まる今こそ改革の適期であり、時機を失することは大崎広域消防として大きな損失である。
- 消防の広域化を見据え消防体制の構築を図ることは、いかなる状況になろうとも大崎広域消防の堅固たる基盤となる。

検討会の設置

- 構成市町の消防担当課長等で構成
- 全署所を視察し実態の把握
- 「今後の大崎広域消防本部の消防体制について」検討協議
- 組合管理者への報告書の作成

消防業務毎1件当たりの経費積算表その1

業務毎歳出予算額

平成15年度

歳出項目	予防	警防	救急	指令	計
人件費	210,714千円	1,170,208千円	668,083千円	164,033千円	2,213,038千円
1目備品	239千円	1,166千円	682千円	393千円	2,480千円
2目備品		28,957千円	14,752千円		43,709千円
公債費(1)		12,422千円	6,593千円	39,650千円	58,665千円
公債費(2)	913千円	5,257千円	1,825千円	456千円	8,451千円
その他(1)	1,336千円	17,657千円	5,296千円	31,244千円	55,533千円
その他(2)	17,379千円	33,605千円	31,534千円	32,570千円	115,088千円
計	230,581千円	1,269,272千円	728,765千円	268,346千円	2,496,964千円

消防業務毎1件当たりの経費積算表その2

1件当たりの経費

業務区分	件数	経費	備考
予防	3,996件	57,702円	
警防	7,785件	163,045円	
救急	7,253件	100,477円	
指令	7,462件	35,961円	
総件数	26,496件	94,240円	
管内人口	223,049人	11,194円	平成16年度の市町村消防費一人当たり, 10,800円
管内世帯数	67,672世帯	36,898円	1世帯当たり
消防職員数	308人	8,107,029円	1人当たり
火災	156件	8,136,583円	

消防広域化を見据えた報告書の作成

- 消防署所の適正配置について

1市12町1村から1市4町になり、従来の市町の垣根がなくなったことから、大崎圏域全体で再考すべき。

- 人員・車両等の消防力について

車両乗車人員を基準とすることで安全面を充実し、特殊災害、大規模災害に対応できる車両と人員を整備すべき。

- 消防庁舎の改修等について

耐震診断の結果と老朽化から改修は必至の状況であることから、新築を基本として防災拠点構想もふまえた改修等を実施すべき。

組合議会への報告

- 時間にとらわれず，具体的な報告
- 議員が内容把握するまで質問に対応
- 議員の市町議会への説明責任の確認
- 長期的で恒常的な安心・安全を確保するため，効率的消防財政の運用が基本

構成市町議会への説明

- 議員の市町議会への説明責任の確認
- 消防専門者からの説明を議員から要請
- 構成市町全体の議会に出向き説明
- 時間にとらわれず，具体的な報告
- 議員が内容把握するまで質問に対応

消防広域化に対応できる体制整備への 着手

- 平成19年4月に、消防施設整備担当を消防本部総務課に配置し、20年度実施に向け業務開始。
- 消防職員による消防広域化等検討委員会を設置し、運用計画作成に必要な事項について検討を開始。

結 論

- 現在，国が進めている「消防広域化」・「消防救急無線デジタル化の共同運用」は，安全・安心の基盤を作るうえで，最も環境がととのった時期であることを，消防長として英断を持って決断し，首長へ進言することが最重要

工藤消防長プロフィール

工藤 司（くどう つかさ）

所属 大崎地域広域行政事務組合消防本部（宮城県）
役職 消防長（消防正監）

経歴 昭和45年10月1日
大崎地区消防事務組合消防本部消防吏員採用
昭和48年4月1日
大崎地域広域行政事務組合消防本部古川消防署勤務
昭和53年8月
消防司令補に昇任 予防課予防係長
昭和60年10月
消防司令に昇任 総務課主幹兼人事研修係長
平成3年4月
消防司令長に昇任 総務課長
平成7年4月
消防監に昇任 古川消防署長
平成12年4月
消防次長兼総務課長
平成17年4月
消防正監に昇任 消防長

現在のその他役職

総務省消防庁消防広域化推進アドバイザー
宮城県消防広域化検討会議委員

主な委員歴と実績

組合条例改正プロジェクトメンバー
消防職員週休2日制検討委員
組合事務機構改善委員
消防事務改善プロジェクトメンバー
転院搬送時の2名乗車（医師等同乗時）
指揮隊設置
P A連携（A E D活用ポンプ隊）
三部制の試行（平成18年度から）
協議会の設置（平成18年）構成市町消防担当者等
消防広域化等検討委員会設置（消防本部職員）